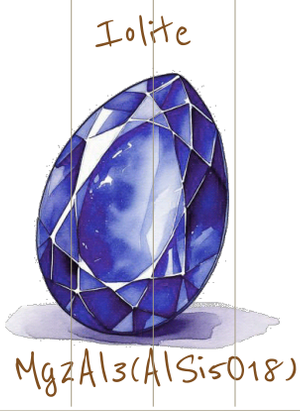
【アイオライト（菫青石）】

蒼き霧に包まれし秘石にして、光の戯れにより姿を変ず。時に深き紫紺の衣をまとい、時に淡き蒼穹の面影を映す。見る者の心眼を試すがごとく、角度により異なる表情を見せるさま、まるで夢幻の世界へ誘う導き手のごとし。

古の航海者が天を仰ぎ、この石を羅針盤とせしと伝わるは、遥かなる彼方への憧れを語るがごとし。ただ美しき装飾にあらず、魂の奥底に秘められし真理を映し出す鏡なり。

光と影の交錯するその姿、静かなる力をたたえ、人々の迷いを払う羅針の灯火ともならん。